

特別企画

広げよう英語科の輪（福井市）

福井県立藤島高等学校 英語科

福井県立藤島高校英語科です。本校はJTE 13名とALT 2名の計15名です。3学年28クラス、全員一生懸命教えています。



- メンバー紹介
- ①授業で大切にしていること
 - ②2024年の目標
 - ③藤島の英語科の、ここがすばらしい！

磯野和之

- ①生徒にとって意義深い授業
- ②しっかり睡眠をとり、健康を維持
- ③生徒のみなさんのために、という意志

橋本賢一

- ①後生可畏
- ②家内安全
- ③談論風発

橋本 貴 芳 -----

- ①あわてず、あわてさせず、のんびりと。
- ②教員生活は残り僅か。健康で全うできますように。
- ③共助の精神がある。授業の代替や科内の業務などがスムーズ。

濱野 則 子 -----

- ①自分がまず楽しむ。生徒が自分の考えを言う時間をつくる。
- ②健康でいる。睡眠を確保する。無理をしない。好きなことをする。
- ③頼りになる。無駄がない。みんな若いのにようできなはる。

森本 浩 司 -----

- ①生徒の様子をよく観察することでしょうか～！？
- ②小さなことからコツコツと。時代に左右されないことと時代について行くべきこととをじっくりと吟味したい。
- ③みなさんプロフェッショナル、だけどつまらない雑談にも付き合ってくれる懐の深さ。ちょっと怖い時もあるけど～

鈴木 千 文 -----

- ①明るく、前向きに、を心がけています
- ②生徒の顔をもっと覚えて、廊下で声かけできたらいいな
- ③連絡メッセージのやりとりだけでも、業務がちゃんと成立するところ

白崎 史 恵 -----

- ①生徒の明るい将来につながること
- ②前より少しだけ良くなることを目指す
- ③皆さんの陰ながらの努力と前向きな姿勢

勝木 尋 子 -----

- ①考える時間・考える空間を創ること
- ②心身共に健康かつ健全に生きること
- ③困った時は誰かが助けてくれること

小林 香 織 -----

- ①授業内容が求められているものかどうか、生徒の反応をよく見ること。
- ②心も体も健康で、仕事も趣味も楽しみたい！
- ③授業の相談から世間話まで話しやすいメンバーで、みんなバイタリティに溢れているところ。

伊藤 仁 美 -----

- ①「はじめに生徒ありき」
- ②ワークライフバランス。
- ③先生方お一人お一人の熱意が素晴らしいです。

三 仙 真 也 -----

- ①生徒の思考力を活性化させること
- ②全国制覇。あと、もう少し痩せたい
- ③助け合いながら皆が教材研究に熱心に取り組むところ

梅 田 武 幸 -----

- ①「英語楽しい！」を感じる瞬間がある
- ②富士山登頂！
- ③英語のことや授業のことについて真剣に意見を交わせる雰囲気が素敵です！

竹 内 友 理 -----

- ①身近な具体例と結びつけて話すようにしています。
- ②目の前のことをコツコツ頑張って、日々成長できるようになりたいです。
- ③先生方一人ひとりが段取り良くスムーズにお仕事をされているところです。

Mamugay, Philip Hope -----

- ① I believe an element of fun and a variety of activities are important in classes.
- ② My goal is to have students feel comfortable volunteering to answer questions in class. I would like to see more of them raising their hands to answer.
- ③ The teachers are very helpful and supportive. They also value my input, and they are very knowledgeable in their field.

McCulloch Brianna -----

- ① I think it's important to make sure your students understand what you are trying to teach and how you can accomplish that.
- ② I want to finish my teaching certification and continue making a difference in the classroom.
- ③ All of the JTEs! I really enjoyed working with everyone and how helpful they were. I miss them very much.

Nobuhle Ratlhagana -----

- ① Create an environment that is friendly and comfortable for my students to express their views and ask questions when they do not understand.
- ② Learn how to speak Japanese and fully immerse myself in the culture. Also, I would like to become a better teacher for my students.
- ③ Providing assistance and support when needed.

福井県立高志高等学校 英語科

こんにちは！私たち高志高校英語科は教員11名、ALT2名で毎日楽しく授業を行っています。生徒のレベルや希望に合わせた講座展開が特徴的で、プレゼンテーションやディベートなどを授業に取り入れ、英語で伝え合うことの大切さを全教員が共有し、実践しています。



(後列 左から) 義江、富田、内田、西川、Jacob、Kameko、進士
(前列 左から) 吉川、渡邊、米林、森本、高島、嶋田

●メンバー紹介 授業で大切にしていること

嶋田 玲子	生徒の一人一人を大切に！
義江 浩一郎	基礎基本とおやしギャグ
吉川 長利	授業の内容への興味と関心
富田 秀明	笑い
渡邊 さゆり	目線
西川 智康	独り舞台・自己満足で終わらないようにすること
高島 理恵	生徒の自己関与度と a-ha! 体験
内田 冬萌	できるだけ生徒が英語を使う時間を増やすこと
進士 祐介	世間話
米林 彩乃	生徒が意識を保てるようにすること
森本 麻友	生徒のモチベーションを高めること！
Jacob Shanahan	A fun atmosphere where everyone can learn together!
Kameko Owens	Having fun with English.

福井県立羽水高等学校 英語科

こんにちは、羽水高等学校の英語科です。私たちは、福井駅から徒歩圏内にある校舎で、3学年合計、800名以上の生徒が学ぶ学校です。USUI7という教育目標のもと、PBL（探究）活動や、姉妹校交流やドイツ人留学生の受け入れをはじめとする様々な国際交流活動も積極的に行っている、特色豊かな学校です。英語科日本人英語教員11名及びALT2名と比較的大所帯ですが、互いに情報交換を密にし、連携して日々の教育活動を行っています。



（後列 左から） ソートン、ハミルトン、佐々木、山本、橋本、鏑村
（前列 左から） 田中、澤田、大久保、松田、長谷川、藤田、河合

●メンバー紹介 ① お気に入りの英語勉強法 ② お勧めの旅先

河合 伸介（かわい しんすけ）

- ① 映画を見る ② 温泉巡り

藤田 裕（ふじた ひろし）

- ① お気に入りの英語勉強法：BBC・CNNの視聴 ② お勧めの旅先：北アルプス

長谷川 麻紀子（はせがわ まきこ）

- ① BBC podcastで聞いてます。 ② ベトナム

松田 亜紀子（まつだ あきこ）

- ① ALT世話係になって仲良くなる ② 夏の白山

大久保 昌 倫 (おおくぼ まさりん) -----

- ① ALT と無駄話をする ② おむすび山

澤 田 則 義 (さわだ のりよし) -----

- ① CNN English Express で日本より3歩進んだ最新 News を聴く
② Bリーグ観戦、神社・仏閣巡り

田 中 宏 明 (たなか ひろあき) -----

- ① 海外一人旅 ② ロンドン、パリ、ニューヨークなど大都市

鏑 村 明 (かざりむら あきら) -----

- ① 洋画を英語字幕で見る ② タヒチ ボラボラ島

橋 本 千 宙 (はしもと ちひろ) -----

- ① 英語字幕を付けて洋画を見る ② トルコ

山 本 美 好 (やまもと みよし) -----

- ① 海外の映画を見る時は日本語字幕付のあと、字幕なしで2回目を見る、最近サボり気味なのでがんばります。
② スペイン バスク地方

佐々木 和 桜 (ささき なお) -----

- ① 洋楽の和訳 ② イタリア フィレンツェ

イザベル・ハミルトン -----

- ② 南アフリカ

ライアン・ソントン -----

- ② 沖縄県 宮古島

福井県立足羽高等学校 英語科

こんにちは、足羽高等学校の英語科です！私たちは、自然に囲まれた学校で、多種多様な生徒たちと深くコミュニケーションを図りながら、世界に羽ばたく人材を育成しています。



(上の段) 岡崎 竹本校長 大久保 Nase Ben 牧野
(下の段) 高野 中坪 武田 笹野 伊藤

●メンバー紹介 ①授業で大切にしていること ②座右の銘

校長・竹本俊穂
②感謝

牧野朋樹
①座る→開く→聞く→読む→話す→書く→調べる→手を挙げる→会話する→閉じる→整理する
②“Ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country.”

伊藤美智子
①毎時間、1度は発言・発表すること。 ② Deeds, not words.

笹野朋恵
①少しでもわかる・楽しいと感じさせる。 ② Where there is a will, there is a way.

高野美知恵
①生徒の活動を多く取り入れること ② Time is money.

岡崎 普

- ①外国人生徒と日本人生徒との協働の学び ②進取、積極、創造

中坪 佑香

- ①頑張りを認める。 ②向き不向きより前向き

大久保 宥也

- ①英語を使う楽しさを感じさせる。 ②楽しむ

武田 順子

- ①わかったの瞬間を実感させる。 ②敢行（かんこう）

Ben

- ① Independence in learning and multicultural understanding
② Passion is life's greatest guide

Nase

- ① Arouse students' curiosity in other cultures, countries and languages.
② You can do anything you put your mind to.

福井県立福井農林高等学校 英語科

本校には各学年4つのクラスがあり、それぞれ生物生産科、環境工学科、生活科学科、食品流通科です。新課程では、1年次に英語コミュニケーションⅠを3単位、2、3年次に英語コミュニケーションⅡを2単位ずつ取得するカリキュラムになっています。



(左より) 松嶋 ステファニー 青山 松田

●メンバー紹介 ①行ってみたい場所 ②好きな食べ物 ③休日の過ごし方 ④おすすめの本

青 山 秀 樹 -----

- ①台湾 じっくりのんびり旅行してみたい
- ②焼き肉、寿司（食べることができるのは盆と正月ぐらいですか）
- ③ほとんどインドアに籠もります（ゴルフや自転車も好きなのですが）
- ④橘玲氏の著作いろいろをお薦めします（松田先生に取られてしまいましたので）

松 田 拓 己 -----

- ①沖ノ鳥島（日本の排他的経済水域を確保している島の現状を見てみたい）
- ②二郎系ラーメン（200グラムで十分なのですが）
- ③日販品などの買い物やリサイクルゴミ出し
- ④「深夜特急」沢木耕太郎

松 嶋 優 季 -----

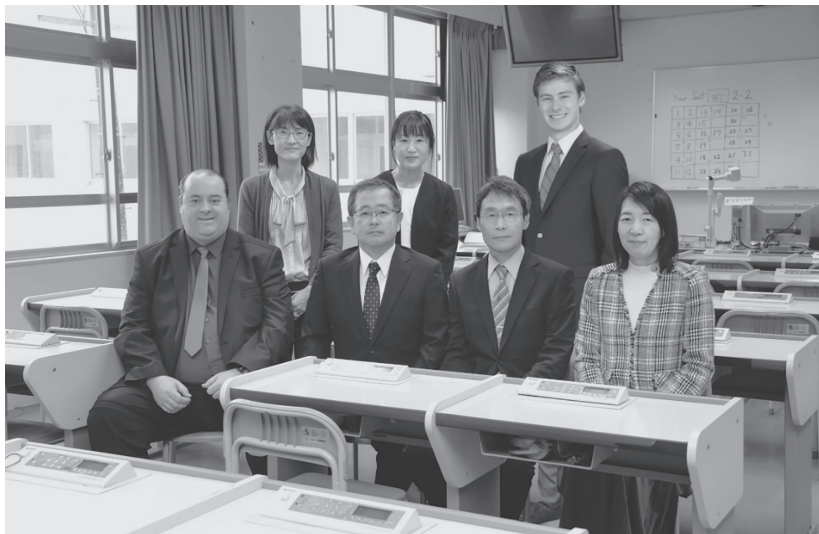
- ①北海道
- ②海鮮丼
- ③家族と外食したり、ダンスをしたりして過ごしています
- ④「博士の愛した数式」小川洋子

Stephanie Ann Kaelin (ステファニー アン ケイリン)

- ① I want to see where I was born in Germany.
- ② I love yakiniku.
- ③ In Japan, I usually travel to new cities and explore Japanese culture. At home, I stay home with a good time.
- ④ "Alanna" by Tamora Pierce 「アラナ」タモラ・ピアー

科学技術高等学校 英語科

科学技術高校の英語科です。本校は、『よりよい社会をつくる人となろう』の校訓のもと、工業の高い知識と技術力を身に着け、地域に貢献し、かつグローバルに活躍できる人材育成を目指して、日々元気な生徒達と関わっています。



(後列左より) 山田、上田、Roscoe
(前列左より) Karim、南東、西尾、杉田

●メンバー紹介 (①訪れてみたい場所 ②リラックス方法 ③好きな言葉・座右の銘・モットーなど)

Ricketts Roscoe

- ① Kyusyu and Okinawa
- ② naps and going for walks
- ③ It's all the same to a clam!

西 尾 康 弘 -----

- ①オーストラリア・ブリスベン
- ②音楽鑑賞
- ③ Youth is not a time of life; it is a state of mind. 青春とは人生のある期間でなく心の持ち方をいう (サムエル・ウルマン)

南 東 寛 司 -----

- ①アメリカ・ニューヨーク
- ②海外ドラマ鑑賞
- ③ The die is cast.

山 田 美 香 -----

- ①アメリカ カリフォルニア ディズニーランド・リゾート
- ②子供と9時に寝る
- ③小さいことを重ねることが、とんでもないところに行くただ一つの道 (イチロー)

上 田 沙 織 -----

- ①カナダ・バンフ国立公園
- ②長風呂
- ③ Your time is limited, so don't waste it living someone else's life. (Steve Jobs)

杉 田 佳 子 -----

- ①ナスカの地上絵
- ②お天気の良い日のウォーキング
- ③幸せは自分の心が決め

福井商業高校 英語科

福井商業高校英語科です。生徒に対しては、豊かな自己表現力を持ち相手を尊重して寛容なコミュニケーションがとれる能力の育成を目指しています。グローバルな視点から世の中で起きている出来事を正しくとらえ、その出来事に対して自分の意見を正しく持つことの大切さを、総合的な英語の学習を通して学んでほしいと願っております。各種行事や国際交流活動を通して、生徒が変容し自信を深めていく様子を見ることは英語科教員としてこの上ない喜びです。本校の例年の取り組みは以下のようになります。(※令和5年度のみ)

- 6月 全商スピーチ・レシテーションコンテスト県予選
- 7月 国際経済科オーストラリア夏季研修
- 8月 ワールドユースミーティング
- 9月 全商スピーチ・レシテーションコンテスト全国大会（東京）
- 10月 韓国高校生訪日団来校（※）
- 11月 県英語ディベート大会〔アカデミック部門〕
日韓高校生交流派遣事業（※）
県英語ディベート大会〔パラメント部門〕
- 12月 ウィンターセミナー
アジア高校生交流プログラム（ASEP）
- 2月 国際交流発表会



(後列左から) 竹内 野村 伊藤 上田 浅水
(前列左から) 堂埜 ジェイク エリザベス 石田

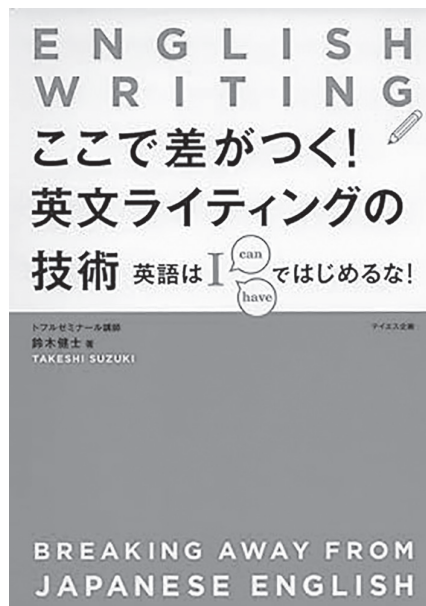
BOOKSHELF Vol. 10

私のお薦めの一冊

鈴木 健士 著

- 1 ここで差がつく英文ライティング！
英文ライティングの技術
英語は「I」で始めるな！
2018年 / エイエス企画 / 320pp./1980円 /
ISBN 978-4887842090
- 2 基本の「型」がしっかり身につく
自由英作文の合格教室
2021年 / KADOKAWA / 272pp./1650円 /
ISBN 978-4046052162
- 3 英文ライティングのメタモルフォーゼ
2023年 / KADOKAWA / 256pp./1980円 /
ISBN 978-4046058157

会長 竹本 俊穂 (足羽高校)



1は、多くの日本人学習者が書く典型的な特徴（主語がほぼ全て「I」などの人称になる、「だから」という結果を表す場合に接続詞の「so」を連発する、「～がある」という内容を「There+be動詞」の構文でしか表現できない、「できる」という意味を表す場合に助動詞「can」の使用頻度が極端に高いなど）が連発するワンパターンのセンテンスを繰り返さずに、表現にバリエーションを持たせ、レベルの高い英語らしい英語を書く能力の育成を意図しています。

2は、読み手に内容が伝わり、評価される自由英作文を書くための3つのルール（「抽象から具体への展開」、「因果関係」、これら2つを「英語で表現するためのルール」）を学習し、さまざまなトピックに対応できるライティングの極意をマスターすることを意図しています。

3は、受験英語の次のステップに進み、英文エッセイを「読む」ことを通じて一生涯使える英文ライティング力を育成することを意図しています。「大谷が大きな目標を掲げたので、一部の野球評論家は憤慨した」を英語にすると、直訳して、Ohtani set a big goal, so some baseball critics got angry. のように書いてしまいがちです。これを次の3つのステップで書き換えると見違えるほど洗練された英文になります。①“無生物”を主語にする。Ohtani set a big deal→Ohtani's big deal あるいは Ohtani's lofty aspirations (大谷の大きな志) ②続きを make OC で書く。Ohtani's lofty aspirations made some baseball critics angry. になります。critics の代わりに「ご意見番」という意味の pundits を使うこともできる。③ make 以外の動詞を使って書きかえる。make ~ angry は anger ~ や upset ~ のような「怒らせる」という意味の動詞 1 語にすると Ohtani's lofty aspirations upset some baseball critics. になります。「羽を逆立ちさせる」という意味の ruffle one's feathers などの熟語を使って Ohtani's lofty aspirations ruffled the feathers of some baseball pundits. にすることもできます。本書では、

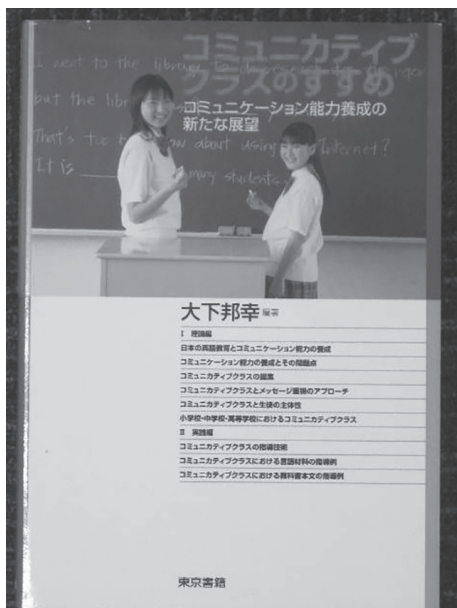
この3つのステップを始めとする様々な技術を効果的に習得できるように英語らしい表現をふんだんに使ったエッセイを読みながら英文らしい「型」を身につけることを意図しています。1および2で学んだことが生きる場面も多いです。

私は英語資格の取得に向けた学習をしているときに特に1および2から多くのことを学びました。先生方におかれてはライティングを指導される際に、生徒のレベルに応じたアドバイスをの上で参考になると思います。また、3は先生方が英語力向上を目指される際にきっと多くの示唆を与えてくれるのではないのでしょうか。

大下 邦幸 編著

コミュニケーションクラスのすすめ コミュニケーション能力養成の新たな展望

2009年／東京書籍／286pp.／2,000円／ISBN978-4-487-80407-8



副会長 西 健 (坂井市立三国中学校)

本県では、私たちの先輩の英語教員が、大下邦幸先生を中心として授業をコミュニケーションの場と捉え、英語を使って意見や考えをやりとりする授業（コミュニケーションクラス）を行ってこられました。平成29年度に告示された学習指導要領外国語編では、国がコミュニケーションクラスの考え方によりやく追いついてきたと感じたものです。

この本は、コミュニケーションクラスの理論編と実践編に分けて書かれており、英語の授業改善に大変参考になる本です。

「I 理論編」のコミュニケーションクラスの提案では、基本原理と特徴 (p40～p50) として、下記のように書かれています。

- (1) 授業をコミュニケーションの場と捉える
- (2) 英語を媒介として授業を行う
- (3) 授業をコミュニケーションに行う
- (4) 背景知識や生活経験を活用する
- (5) 学習者の自己関与度を高める
- (6) 教師と生徒で授業を作り上げる
- (7) 生徒は授業で物知りになる

「II 実践編」では、授業づくりの具体例が書かれており、コミュニケーションクラスにおける言語材料の指導例が書かれています。

コミュニケーションクラスの指導技術では、

- ・インタラクションを使うこと
- ・生徒の考えや意見を生かすこと
- ・考えや意見を問う発問

等が書かれています。

コミュニケーションクラスにおける言語材料の指導例では、本県の英語教員が行った実際の授業の流れに沿って、どのように指導したらよいか具体的に書かれています。

英語を使って意見・考えを伝え合い深め合うコミュニケーションクラスの授業は、学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」なのだと改めて感じる今日この頃です。

この本を読んだことのない先生方、ぜひお読みいただき、実践してください。

他にも大下先生の書籍を紹介させていただきます。

コミュニケーション・クラスの理論と実践	大下 邦幸	編著	東京書籍
意見・考え重視の視点からの英語授業改革	大下 邦幸	監修	東京書籍
意見・考え重視の英語授業	大下 邦幸	編著	高陵社書店

木村 達哉 著
あなたのちからになりたくて
出版社：ラグーナ出版（2022年）



広報部副部長 織田 昌宏（大野高校）

著者である木村達哉氏は、西大和学園中学校・高等学校、灘中学校・高等学校において英語の教員として23年間教鞭を執られてきました。『東大英語リスニング』シリーズや『夢をかなえる英単語ユメタン』シリーズを通して、多くの生徒を、東大を始め、医学部、難関大学合格へと導いてこられました。そんな著者がこの本を出版したのは、次のような思いがあったからです。

『西大和学園と灘校では不登校をはじめとする悩みを持った生徒たちとたくさん接してきました。なんとか卒業はできたけれども、実はほとんど学校に出てこられなかったという子たちもたくさんいます。東大に合格する子たちには光が当たります。が、光には常に影があります。大人でも同じです。せっかく教員になったのに、せっかく望んだ会社に入ったのに、悩みばかり抱えてちっとも幸せじゃない人たちがいます。それもたくさん。そういった方々のために、今回の「あなたのちからになりたくて」を創ったのです。33年間、進学校というところで教員をやってきた僕が、影になった子どもたちに、あなたたちは決して影なんかじゃないんだよということを伝えたくて創った本なのです。』

本書は日本語と英語で書かれており、英語の勉強にもなります。ですが、英語の勉強のためというよりも、心のビタミン剤として読む一冊です。作中の絵は木村氏自身が専門学校に通って絵を学んで描かれています。文章だけでなく、挿絵からもどこか温かさと癒しを感じることでできるものとなっています。ところが疲れてしまったとき、進むべき道に悩んだとき、仕事が思うようにいかないとき、そんなときに私たちに寄り添ってくれる詩画集です。

菅 正隆 編著 松下 信之 著 山田 知弘 著
4つのステップで学びが変わる！高校英語「探究する」授業のつくり方
2022年／明治図書出版／176pp.／2376円／978-4183855244

研究部部長 村 昭 信（三国高校）



昨年度、勤務校で教科主任をした際に、各教科での「探究的な学び」について、それぞれの教科が講師の先生をお招きし研修会を行うことになった。英語科は高志高等学校長の山内悟先生をお招きして、英語科における探究的な学びの実践についてご教授いただいた。その中で山内先生が仰った、「教科書を使った英語の授業そのものが探究的な学びである」という言葉が最も印象に残っている。英語の教科書が取り上げている題材は医学的なものから食に関連したものまでさまざま、教科書を通じて学ぶことで教科横断的な学びが実現できており、探究的な学びの要素を多く含んでいる。私自身、そういうふうに教科書の題材を捉えたことがなかった

ので、目から鱗が落ちる思いだった。英語科での「探究的な学び」といっても肩ひじを張る必要がなく、教科書で扱われている素材を大事に扱うことが「探究的な学び」につながるのだと思うようになった。

前置きが長くなりましたが、山内先生のお話を受けて、英語科における探究的な学びを扱う書籍がないのかと調べていると、ある雑誌の広告を通じて本著と出会った。

本著は4チャプター構成になっており、チャプター1は「探究を取り入れた英語授業づくり」で探究についての概論が述べられており、チャプター2～4は「高校の探究授業づくり」の実践例が基礎編・標準編・発展編に分かれて紹介されている。著者の方々がどのように英語科の探究的な学びを捉えているかという、総合的な探究の時間の学習指導要領解説に示されている「探究のプロセス」を基にしている。①「課題の設定」で教科書の題材を基に課題を設定し、②「情報の収集」で課題解決に向けて情報を収集し、③「整理・分析」で収集した情報を取捨選択し、比較等行いながら自分なりの最適解へと導く。④「まとめ・表現」では英語を使いプレゼン、ディベート、ディスカッション、エッセイライティング等で自分の考えを表現する。オーソドックスな探究のプロセスだが、英語の授業で行うため、それぞれの言語使用は②はinput、③はintake、④はoutputということになっており、これらの活動を通じて生徒は題材について深く掘り下げて考えることになる。ここまで見ると、ある程度の英語力がある生徒しかできないと思われるが、各プロセスには「英語を苦手とする生徒への対応」も記載されており、いろいろなレベルでの活用が可能である。

実践編についてはレベルに分かれているので、勤務校の状況に合わせた実践が可能である。また、授業の流れだけでなく、評価方法や評価規準の例も書かれており、痒い所に手が届く内容となっており、ぜひ参照されたい。英語科でも探究的な学びを取り入れたいとお考えの方には必見である。

斎藤兆史 著
英語達人列伝

2000年／中公新書／255pp.／902円／ISBN: 978-4121015334

英語達人列伝Ⅱ

2023年／中公新書／250pp.／924円／ISBN: 978-4121027382



『英語達人列伝』は、『中央公論』1998年8月号～1999年12月号に連載された「英語達人伝説」に加筆修正を施して、2000年5月に刊行された。英語と云う観点から日本近代史偉人を伝記的に調査・再訪し、「達人」たちの英語学習法や超人的努力、その偉業を詳らかにしながら、英語学・英文学の教育・研究に長年携わってきた著者ならではの日本の英語教育に対する知見を加えると云う、謂わば三層構造から成る書物である。

登場する「達人」は、新渡戸稲造、岡倉天心、斎藤秀三郎、鈴木大拙、幣原喜重郎、野口英世、斎藤博、岩崎民平、西脇順三郎、白洲次郎という錚々たる十人。24歳になるまで外国に出たことがなかったにも関わらず、渡米の折に街で米人に冷やかされた際とっさに切って返したとか（岡倉天心）、工部

大学校在籍時に大学図書館所蔵の英書を全て読み尽くし、『大英百科事典』全35巻に至っては二度読んだとか（斎藤秀三郎）、どこを聞いても分からないところが無い程まで英和辞典を読み込んだ（西脇順三郎）等々、日本に居ながら英米人も舌を巻く英語力を身につけた「達人」たちは、同じく英語を学ぶ人間からすると、ただただ驚嘆敬服して平伏すしかない超人たちばかりである。

この書に感銘を受けて続編を心待ちにした人は筆者を含め数多居る筈だが、23年が経ちようやくその渴が癒された。著者は“まえがき”で、こう記す：「前著の出版から二〇年余が経ち、日本の英語学習・教育を取り巻く状況も（おそらくはだいぶ悪い方向に）変わった。この状況を打開するほどの示唆を与えるかどうかはわからないが、あらためて日本人にとっての英語学習の手法となるような人物を探し出して紹介する価値は大いにある。（中略）あくまで彼らの英語力の基礎は、英語学習に必ずしも適さない日本という土地での工夫と努力によって築かれたものである。あらためて書くが、日本人にとって彼らほど格好のお手本はない」。

その「格好のお手本」として今回紹介される「達人」は、嘉納治五郎、夏目漱石、南方熊楠、杉本鉞子、勝俣銓吉郎、朱牟田夏雄、國広正雄、山内久明の八名である。どの達人の努力にも深い感銘を受けるのだが、個人的に特に印象深かった人物を一人挙げると、それは、生涯に376篇もの英文論考・随筆を発表した南方熊楠である。読み書きを中心とした南方の英語学習法について斎藤氏はこう記す：「彼が最終的に身につけた英語力は、日本人が読み書きを通じて身につけうる英語力

の最高点に達している。英語は口頭のコミュニケーションを通じて学ぶべきだと主張する人は多いが、彼の業績を見たらぐうの音もでない」(p.85)。

斎藤氏はこの続編で、『英語達人列伝』以上にコミュニケーション重視の英語教育を厳しく批判している。これらの達人たちの学習法が日本の英語教育史上で等閑されることに對し、「彼らを手本とせず、何を手本にしようというのか」と強い義憤に駆られている。そして、上質な英語力を身につけるにはどうすべきかについて、以下のように結論付けるのである。

基本は単純である。達人たちの学習方法を真似すればよい。音読、素読、文法解析、辞書の多用、暗唱、多読、暗記、作文、その他、考えるかぎり質の高い英語に触れ、それを真似して使う練習をする。それを毎日行う。それだけである。(p.249)

朱牟田夏雄 著

英文をいかに読むか [新装復刊]

2019年／研究社／347pp.／3300円／ISBN: 978-4327452957



『英語達人列伝Ⅱ』第Ⅵ章で、斎藤兆史氏はこう記している：「かつて東大の教養学部には、並の英文学者をはるかにしのぐ学識と業績を持ちつつ、自らを「語学教師・訳読教師」と呼び、平然とその役回りに徹した先生がいた。その名を朱牟田夏雄という。一般的には、翻訳と英文解釈の名人として知られた先生である」(p.150)。『列伝Ⅱ』では朱牟田氏の『英文をいかに読むか』にも言及されておられたので、此处で改めてこの名著を御紹介したい(文建書房が1959年に刊行した『英文をいかに読むか』を、研究社が2019年に新装復刊)。

本書は、第一編「総論」で例文を用いて英文解釈の心得を講じ、第二編「演習」で Somerset Maugham, George Orwell, Bertrand Russell 等の錚々たる名文家の文章を分析した後、締めくくりの第三編では著者

が「英文壇の知性派の代表」と称す Aldous Huxley のエッセイ ‘Doodles in the Dictionary’ を全篇詳細に解析するという構成になっている。本書の中心を成す第二編・第三編は ‘Student Times’ や『高校英語研究』に連載されたもので、文字通り生徒に「英文をいかに読むか」を講じるスタイルで書かれている。

されど、生徒に対する英文解釈教室とはいうものの、本書の‘英文解釈’は昨今の大学入試を遥かに凌ぐレベルで講じられている。何せあの斎藤氏に、「一読して、その丁寧かつ正確な解説に舌を巻いた。「英文解釈」は、もしかしたら僕などが足を踏み入れてはいけない世界ではないかと、自信を失いかけている」と言わしめているのである。

ちなみに筆者は本書をどう読んだかという、丁寧な注釈もさりながら、まず〈訳文〉の見事さに感銘を受けた。英文の大意を理解したつもりでいても、朱牟田氏の手になる〈訳文〉を読むと、自分の解釈の雑駁さが浮き彫りになる。それほど、行間に息づいている書き手の主張（メッセージ）が細部まで明確に可視化される練達の日本語に、練磨されているのである。加えて、講義素材となっている英文自体が素晴らしい。人生や社会、歴史についての思索や哲学等、真の教養を培う豊かな世界を、英文を読みながら味わい体感することが出来る。本書で9篇採られている Maugham がその典型だが、例えば Russell ‘Prologue or Epilogue’ など、原文が内包する崇高な理念と格調高さを余すことなく伝えていて、その見事な日本語に惚れ惚れさせられる (pp.134-135)。一例として、J. W. Krutch という米評論家の放送原稿 ‘The Modern View of Man’ の一節を御紹介する。

Our age began as the age when man seemed to be coming finally into his own.

Never before in the history of civilization had it been so generally taken for granted that man’s freedom, his dignity, his happiness, even what we call his “prosperity,” were the only things that count. Never before had statesmen and philosophers laid so much stress on the importance of any and all men. Never before had they professed to take so little account of, for example, the glory of God, or the glory of the church, or the glory of the political and military state, considered as things to which the welfare of the individual man might properly be sacrificed.

この英文の解説で朱牟田氏は、finally を「最後に」と誤訳したり、三度繰り返される Never before...so... の so を見落として「今までに ... されたことはなかった」と誤訳する危険を戒め、「すべての語句はその context の中において理解されねばならない」ことを懇々と諭してくれる (pp.175-177)。

私事で恐縮だが、筆者は高校時代“原の英標”（原仙作著『英文標準問題精講』）を朋としたもので、本書を読みながらその頃のことを懐かしく思い出した。

山本史郎 著
翻訳論の冒険

2023年／東京大学出版会／368pp.／4620円／ISBN: 978-4130801522



トールキンなどの翻訳を手掛けて30年余、東京大学等で翻訳論を講義して20年余になる著者は、自らの翻訳論の集大成となる本書“はじめに”でこう問いかける——「すべての翻訳がAIによってなされる時代がくるのだろうか？実用的なテキストについてはイエスである。だが、そのような事態となっても、絶対にAIに翻訳できないテキストが存在し続けると断言できる。それはどのようなテキストだろうか？なぜAIに翻訳できないのか？そのような問いにも、本書は答えようとしている。そして結局のところ、それこそが「翻訳論」の最終的に目指すべきゴールなのである。

本書は「I 翻訳になぜ理論が必要か」「II 翻訳の実例を見る」の二部から成り、第一部では翻訳の定義や様々な翻訳理論を俯瞰的に概説していき、筆者自身の翻訳理論をこう定義する：

原テキストには、関連性の原理に基づいて書かれた明意から、推論をへて暗意にいたるプロセスが構造化されているが、それとパラレルな構造を別の言語で作るのが翻訳である。すなわち、原テキストの対象読者が持っている想定のコレクションとは、まったく異なる想定のコレクションを持っている読者が、原テキストと同じ暗意に達することができるような明意を作ることである。(p.132)

そして、続く第二部で実践編として様々な実例を用いて講義していくわけであるが、この書物を手にとった諸氏が第一部の議論を余りに学術的と感じたならば、途中で打ち切って第二部へ進んでも構わないと思う（あくまで私見だが、今後大学等で翻訳論を学ぼうと考えている人以外には、実益は些か乏しいだろう）。その代わりに言うてはなんだが、打って変わって第二部は頗る面白く、知的好奇心を刺激し英語を読む醍醐味を存分に堪能できること請け合いで、これだけで安からぬ書籍代の元は十二分にとれる。

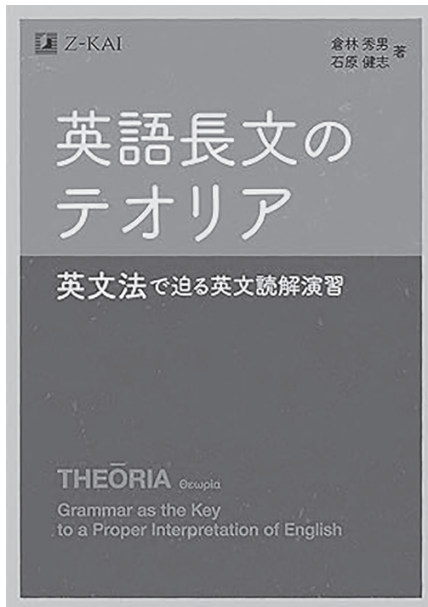
第二部では、ありとあらゆる観点・角度からあるべき翻訳の形を論じていき、そこで用いられる素材がまた百花繚乱で圧巻である。最初に取り上げるのはケネス・グレアムの児童文学で、これを第1稿→第2稿→最終稿と、「原テキストと同じ暗意に達することができるような明意を作る」べく翻訳を練り上げていくプロセスを開陳してくれるのが、大いに示唆に富み啓蒙的である。続いてトールキン『ホビット』や『赤毛のアン』、『ジェーン・エア』といった古典的名作に目を通し、明治日本の天才たち（福澤諭吉、夏目漱石、森鴎外）の翻訳の見事な腕前に慨嘆し、果ては『源氏物語』の英訳（ウェイリーとサイデンステッカー）をテキストとして詳細精密に比較分析し、「暗意」を白日の下に晒して明晰な「明意」を作る過程を詳細に検証して行って、英語を読むことの奥深さと怖さをまざまざと見せつけてくれる。

本書を読みながら、「翻訳」とは決して我々英語教師と無縁のものでは毛頭なく、英語を正確に読むという行為は最終的にこのレベルまで到達しなければならないことを、筆者は痛感させられた。もっとももっとも深く、英語を読むよう努めねば！

倉林秀男 石原健志 著

英語長文のテオリア 英文法で迫る英文読解入門

2021年 / Z会 / 223pp. / 1650円 / ISBN: 978-4865314472



倉林秀男氏は、日本語と言語構造が大きく異なる英語に対峙する際、先人たちが培ってきた叡智である“英文解釈の技法”をフルに活用し、英文法を媒介として書き手の〈メッセージ〉に迫る力——「英文を読むための基礎体力」——を養うと云う趣旨で、『英文解釈のテオリア』（Z会 2021年）を上梓した。本書はその続編にあたるもので、今回は300語から500語程度の長文を通して、「真の英文読解力」を培うことを目的としている。

今回も大学入試問題からコラム、論説文、古典（ヘミングウェイとフィッツジェラルド）、果てはハリボタに至るまで、幅広い分野から題材が選ばれている。筆者が推測するに、難度の高い英文を読みながら複数の重要構文を丹念に分析・説明していく本書の構成上、その意図に合致する英文（素材）を、吟味に吟味を重ねて選び抜いたに違いない。英文自体

の面白さを熟読玩味しつつ、と同時に構文の構造・根底的理論を習得すると云うハイブリッド仕様になっているので、そのセンスの良さと解説の分かり易さには感服するしかない。

例えば「5 論説文を読み解く (4)」。ここでは場所句倒置構文、否定倒置構文、分裂文の三つの構文を“英文法が語ること”でまず解説し、それを受けて‘何故ここで倒置が起きているのか’、‘倒置の文の構造はどうなっているか’、‘分裂文における前景化の働きはどんなものか’等に留意して正確に意味を読み解いていく。「倒置」は、かなり英語力がある生徒でも十全に理解するのに苦労する難物構文であるが、筆者は倉林氏の解説を読みながら、“ああ、こんな風に解説したら、生徒はスッと腑に落ちて得心が行くだろうな”と、解説の上手さに唸らされた。ちなみに倒置は、「7 論説文を読み解く (5)」で倒置指定文が、「9 小説を読み解く (2)」で場所句倒置構文が取り上げられ、個人的には、本書“英文法が語ること”の中で一番読み応えがあった部分である。具体的事例を一つ御紹介すると、“Through the arches of Waterloo Bridge a hundred points of light mark the sweep of the Embankment, and above its parapet rise the towers of Westminster, warm grey against the starlight. The black river goes by with only a rare ripple breaking its silence, and disturbing the reflections of the lights that swim upon its surface”で、破線箇所場所で場所句倒置が起きているのは何故か、その理由を詳細に分析してくれるわけである。(p.198-199)

文法吟味に血道をあげると、文章全体の論旨を見失って英文を読む愉しさと醍醐味がお留守になるのが世の常だが、倉林氏がそんな陥穽に陥ることは決してない。例えば、「3 エッセイを読み解く」。世界一有名な新聞社説と称揚される、8歳の少女からの質問“サンタさんっているの？”に答えた文章を、語彙や表現、構文、パラグラフの組立に留意して精緻に解釈していき、最後に全体像が掌握出来た時の感動・感銘はひとしおである。

英語教師と云うものは、ただ自分が英文を読めるだけでなく——勿論、それ自体が相当な難行なのだが——その英文の構造と趣旨を生徒に理解させ、納得させなければならない。その為の具体的なツールと利用法を丁寧に解説してくれる〈啓蒙〉の書として、広くお勧めしたい。

北村一真 著

文法知識と読解力を高める 上級英文解釈クイズ60

2023年/左右社/262pp./2310円/ISBN: 978-4865283716



北村一真氏は、2019年に上梓した『英文解体新書：構造と論理を読み解く英文解釈』（研究社）によって、伊藤和夫『英文解釈教室』を嚆矢とする体系的英文解釈書に新しい次元を切り開き、その正統の後継者であることを世に宣言した。その続編『英文解体新書2 シャーロック・ホームズから始める英文解釈』（研究社 2021年）は、ホームズ譚に原典で親しみながら、英文を読み解く思考プロセスを鍛えるアプローチに磨きをかけ、二兎を追って二兎を得た書物に仕上がっている。

著者は旺盛な執筆量で次々と魅力的な英語関連書物を刊行しており、此処に御紹介する新刊も、北村ファンなら絶対満足納得堪能すること間違いのない一冊である。元ネタは北村氏がツイッターで出題していたクイズ集で、そこに新たに書き下ろし問題を加えて編集したものである。

大学入試に対応できる英文法は一通りマスターしていても、新聞記事や *TIME*、文学作品になると読めない——。こう嘆息する中上級英語学習者に向けて書く（伝授する）のが北村氏の基本スタンスであるから、当然の如く英語教員にも福音の書ということになる。

論より証拠、一つクイズを解いてみよう。

() Christianity has done in Europe toward rousing compassion in the midst of belligerent horrors, love of music and letters has done in Japan.

空欄に入る語として最も適切なものはどれ？

1. While 2. What 3. Where 4. いずれでもない

種明かしをすると、これは新渡戸稲造の代表作『武士道』の一節が出典である（解答は第5回 pp.27-30を参照）。このように語彙・内容が抽象難解で、加えて構文が入り組んだ英文は、内容の面から強引に攻めても文意を正確に辿れないので、文構造を論理的且つ精密に把握する姿勢が必須となる。通常の参考書例文だと、語彙や内容がシンプルなので構文・内容把握は難なく行っても、新渡戸レヴェルともなると、コンテクストから勝手に構文を把握するのは至難の技で、英文法原理主義に徹して愚直に真正面から攻めていくしかない。

もう2問、「クイズ」を御紹介しよう。

第15問

In the words of Yamagata, 'the Japanese, whether of the military class or not, originally sprang from the same blood, and, when subjected to regular discipline, could scarcely fail to make soldiers worthy of the renowned bravery of their ancestors.'

下線部の make の意味に最も近いのは？

北村紗衣 著

英語の路地裏 オアシスからクイーン、シェイクスピアまで歩く

2023年／アルク／247pp.／1870円／ISBN: 978-4757440173



著書は、「はじめに」でこう記す――

この本は体系的に英語を学ぶための本ではありません。(中略) タイトルに「路地裏」という言葉が入っていることから分かるように、英語学習の王道からはかけ離れた枝葉末節、裏道、脇道を扱っています。(中略) この本は基本的に、英語を学ぶには文化的背景も一緒に知っておいた方がいいし、そのほうが楽しいだろうというコンセプトで書かれています。

この言葉通り、本書は英語を体系的に学ぶ大通りを離れて「裏道」「脇道」に読者を逍遥させ、いつもと異なる英語の風景を眺めながら、英語文化の奥深さを感じていこうという意図で書かれている。シェイクスピアや大学の講義で用いられる文学作品から

ら始まって、映画や演劇、SNS 投稿、YouTube、はては(北村氏が作成した武蔵大学の)大学入試問題まで扱いながら、英語を正確に理解するために必須の知識・文化的背景を、一つ一つ丁寧に説明していく。アカデミックなものから卑近なものまでネタは多彩多岐にわたっており、さながら路地裏を歩きながら小粋なブティックや骨董品屋をウィンドウショッピングするのに似た、愉しさを味わうことが出来る。

また、近年英語教育に実用性を求める声強い風潮に対し、ビジネス英語や英語資格の教材はほとんどの場合面白くないし、面白くなければ当然勉強をする気は続かないとして、こう明言する：「英語で何か面白いことをしたい、楽しみたい、という学習動機を持つ学生には、文学や映画を与えた方が英語力は伸びます」(p.172)。斯様な信念に基づいて編集されているから、素材は知的好奇心をくすぐるネタのオンパレードである。SF ドラマ『マンダロリアン』、クリスマスソングで迎える罵倒語の歴史、ティモシー・シャラメが登場する Apple TV+ の広告、語法が誤っているオアシスのアルバム *Standing on the Shoulder of Giants*、クイーンのアラン・メイが作った“39”(A Night at the Opera に収録) にみられる古風な言葉遣い等を知っていくうちに、「なんか面白いけどたいした役には立たないだろうな……」と思って撰取した知識が、後になってからその外国で人と話をしたり、調べ物をする必要が出てきたりした時に突然、役に立つことがあ」(p.4) るだろうことを、素直に納得する。

一つ例を挙げると、筆者も大好きな傑作戯曲 Peter Shaffer *Amadeus* からサリエリの独白“Displace one note and there would be diminishment. Displace one phrase and the structure would fall.”(Act I) を引用し、「命令文 + and」構文の仮定法ヴァージョンを解説してくれているのが、とても嬉しかった。

英語の路地裏で、雑学に絡めて学習のツボを刺激するにはうってつけで、気楽に楽しく読みながら、ちょっぴり物知りになれる一冊である。

廣野由美子 桑山智成 著

変容するシェイクスピア ラム姉弟から黒澤明まで

2023年／筑摩書房／230pp.／1760円／ISBN: 978-4480017666



シェイクスピアほど後世に大きな影響を与えた作家はいない——こう断言しても、異論を唱える人は少ないだろう。英国や英語文化圏を越え、時代を超越して、読み続けられている The Bard of Avon。この偉大な作家の「広がりゆく現象、ことに変容しつつ増殖していくさまに着目することによって、新たな創造を生み出す源泉としてのシェイクスピアを照らし出」そうと試みたのが本書である。

序章では、広く親しまれている文学作品の随所にシェイクスピアの言葉やストーリーが織り込まれているさまを概観する。第1章では、シェイクスピアがいかに当時の劇場空間を意識して台詞を書き、上演の効果を生み出すために台本にどのような仕掛けを施したかを解説する。第2章では、ラム姉弟によるシェイクスピア劇の小説翻案に焦点を当て、原作

と小説テキストを比較してその相違と創意工夫を明らかにする。第3部では、シェイクスピア劇映画化の成功例として『ヘンリー五世』と『蜘蛛巣城』を取り上げ、演劇と映画の方法論の違いに着目して作品分析を行っていく。どの章も読み応えがあり、ジャンルを超えた沙翁の「変容」過程が生き生きと描かれて興味深い。

個人的には何とんでも第3章が圧巻だった。というのも、そもそも筆者が本書に興味を持ったのは、黒澤明監督『蜘蛛巣城』(1957年)が分析されているからである。英国演出家ピーター・ホールが‘perhaps the most successful Shakespeare film ever made’と、米国批評家ハロルド・ブルームが‘the most successful film version of *Macbeth*’と絶賛した本作は、『マクベス』を日本の戦国時代に翻案したもので(脚本：小国英雄、橋本忍、菊島隆三、黒澤明)、当然のことながら原文(英語)も翻訳も一切使われておらず、プロットの変更点も多い。にも関わらず、何故世界中の演劇・映画人が絶大な賛辞を寄せる大傑作と成り得たのか？

最初の山場であるダンカン殺害場面(第二幕)。黒澤明は7分弱の間、何と主役二人(三船敏郎と山田五十鈴)に無言のまま能の所作(表現形式)で演じさせており、このシークエンスの緻密で論理的な分析は本書の白眉となっている。また、物語後半の大胆な翻案について著者は、「運命と自由意思」というテーマの存在感を薄くし、その代わりに戦争や権力闘争に対する重層的な視点を観客に提供している」と、メタ的あるいはインターテクスチュアルな視点で見事な分析を見せる。結果、『蜘蛛巣城』の卓越性は、イギリスの古典戯曲である『マクベス』との絶妙な関係性を築く一方で、日本の古典である能作品を有機的に組み込み、その上で独自の映画表現を行っていることにある」(p.219)という著者の言葉に、深く頷いた。

ないものねだりを一つ。筆者が考えるシェイクスピア映画化の最高峰は、『蜘蛛巣城』とオーソン・ウェルズ監督『オセロ』(1951年)なのだが、後者についてはどこにも言及が無かったので、是非増補改訂版で取り上げていただきたいものである。

今井むつみ 秋田喜美 著
言語の本質

2023年／中公新書／277pp.／1056円／ISBN: 978-4121027566



本書を書店で見かけ、パッと手に取り、グイグイ読んだら、いくつもハッとして、読み終えてポカーンとしている。

こんな感想を読んで、この本を前向きに読んだらしいと伝わるのはなぜなのか。「発見がたくさんあった」などと書くより、先の感想のほうが思いが届くのはなぜなのか。

(「毎日新聞」2023年7月15日“話題の本”武田 砂鉄)

オノマトペとは何か？それは、「げらげら」とか「もぐもぐ」とか「ふわふわ」などの擬音語と擬態語の総称で、日本人の生活になくしてはならない存在である。著書はこのオノマトペについて、「言語の起源と言語習得の謎を明らかにする上で大事なコトバ、“言語とは何か”という哲学的な大問題を考える上で大事な材料として脚

光を浴びている」(はじめに)と言及し、オノマトペの考察を通すことで記号設置問題や言語習得、言語進化、言語の本質等の言語研究の本丸に迫れるのではないかと考えて、本書を執筆したという。

本論考はまずオノマトペとアイコンの類似性に着目し、シニフィアン (signifiant) とシニフィエ (signifié) が聴覚的・感覚的に似ている点で、オノマトペはアイコン性が極めて強いと考える。次に、“オノマトペは言語か”という命題に対して詳細な分析を施し (pp.58～88)、次のような仮説を導き出す――。

子どもはどのような言葉を最初に覚えるのか、どのように言語が記号のシステムであることを理解し、どのようにこのような抽象的な意味を持った巨大なシステムを習得し、自分の身体の一部にしていくのか。この問題を考える上で、言語の特徴を持ちながら身体につながり、恣意的でありながらもアイコン性を持ち、離散的な性質を持ちながらも連続性を持つというオノマトペの特徴は、ミッシングリンクを埋める有望なピースとなる。(p.90)

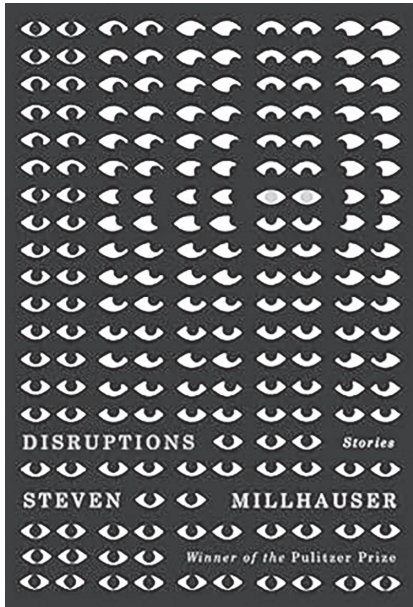
このあと著者は、記号設置問題 (言語という記号体系が意味を持つためには、基本的な一群のことばの意味はどこかで感覚と接地していなければならない) を入り口にして、言語の本質を探りにいく。そして、言語がオノマトペだけで成立していない理由、ことばの形式と対象との間に在る双方向的関係性、論理的には正しくない過剰一般化の問題等々を俎上に上げていき、「子どもが言語習得の過程で行っていること、つまり知識が新たな知識を創造し、洞察を生み、洞察が知識創造を加速するブートストラッピング・サイクルが、まさに帰納推論とアブダクション推論の混合によるもの」(p.212～)であることを論じていく。

なぜ人間だけが言語を持つのかと云う根源的かつ形而上学的問いを論じている本書は、かなり抽象的で難解な部分もあって、正直筆者は、一度読んだだけでは十分咀嚼しきれなかった。しかし、言語の起源を遡っていく知的刺激に満ちた一冊であることは論を待たないし、本書を読み終えた後、冒頭に引用した武田氏の疑問に対する答えが何となく見えてきたのは確かである。

Steven Millhauser

Disruptions

2023 / Knopf / 270pp. / \$28.00 / ISBN: 978-0593535417



筆者が米作家スティーヴン・ミルハウザー論「幻影師ミルハウザー ～Millhauser the Illusionist～」で第28回岩崎賞をいただいたのは、2009年であった。拙稿では執筆時点で出版されていた全著作11冊を対象に論じていたが、その後 *We Others: New and Selected Stories* が2011年に、*Voices in the Night* が2015年にいずれもKnopf社から刊行され、2023年には8年ぶりに最新刊 *Disruptions* を手にすることが出来た。スティーヴン・ミルハウザー（以下SM）を熱愛崇拝する余り遂には病嵩じてSMを論じた拙稿で賞までいただいた身としては、この最新刊を御紹介することは責務と感ずるので、暫くお付き合いいただきたい。

拙稿で筆者が論じたSMの魅力を中心に要約すると、以下のようになる。

1. SMは〈物語を語る〉〈モノを創り出す〉ことに執着し、マニエリスティックに細部隅々に至るまで見事な技巧を凝らす。
2. SMは〈つくりもの〉〈ニセモノ〉に驚異の源泉を求め、「子ども」もしくは「子どもの夢想力を失っていない大人」の視点で物語を語る。
3. 近松門左衛門の虚実皮膜論（「芸といふものは実と虚との皮膜の間にあるもの也」「虚にして虚にあらず、実にして実にあらず、この間に慰が有たもの也」）を作品実証するが如く、虚と実との境、真実と虚構との微妙な境目に、人を魅了するSMワールドの不可思議な力が潜んでいる。

では、18篇が収録されたこの最新短編集において、SMの作風に何がしかの変化があったかという点、本質的にはこれまでの軌跡の延長線上に在るが、と同時に微妙な変化も感じとれる。SM作品は、一見リアリズム小説的な出発点から始まって、想像力・創造力が時には奇想空想的に、時には過剰過激に展開暴走するパターンが多いのだが、本書ではその過激度が幾分抑制されているようだ。言い換えれば、いい意味で少し枯れてきた印象を受ける。

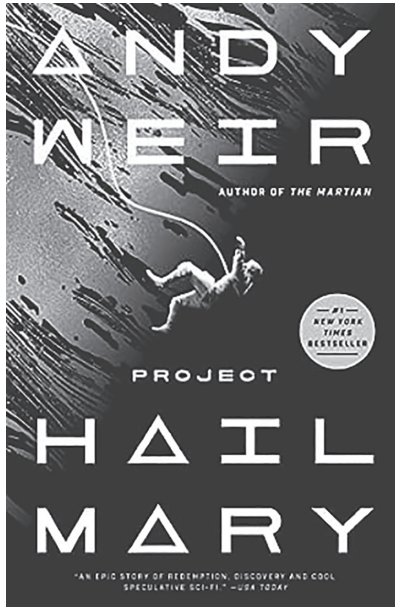
例えば“*Theater of Shadows*”では、「影絵」を出し物にする劇場の話が、初期の大傑作“*Eisenheim the Illusionist*”の如くにリアリズムから幻影幻想の世界へと飛翔するかと思いきや、リアリズムの範疇を踏みとどまり、街および住民が「影」に取り憑かれていく様子を淡々と穏やかな筆致で記述していく。かつてあれ程細部を執拗に描いてマイクロコスモスを造形していたSM独自の華麗な文体が、過剰さを剥離した平易なものへと移行することで、一種「詩」に似たリズム感と音の響きを感じさせるのが、意外な驚きであり、新たな魅力である。1943年生まれという年齢を鑑みると、かつてと同じような素材を扱っても枯淡の境地で書くようになったのかと、長年のファンとしては感慨深い。

筆者が本書で一番興味深く読んだのは“*After the Beheading*”である。*The New York Times* は本篇をシャーリー・ジャクソン「くじ」(Shirley Jackson “*The Lottery*”) に擬えていたが、「くじ」の肝がサプライズであるのに対し、SMのそれはサスペンスである。真綿で首を締めるような不穏な展開は彼の独壇場で、筆者はSM節を存分に堪能した。

Andy Weir

Project Hail Mary

2021 / Ballantine / 496pp. / \$21.52 / ISBN: 978-0593135204



本書は、可能な限り何の予備知識を持たずに読むことを強く強くお勧めする……が、それでは書評にならないので、ネタバレしないよう興を削がない程度に、内容を御紹介する。

著者のデビュー作 *The Martian* は、事故で火星にひとり取り残された植物学者が、科学的知識と洞察力と生活の知恵を駆使して生き延び、地球へ無事生還するまでを描いた冒険SFで、刊行直後から大評判となった。後に監督リドリー・スコット、主演マット・デイモンで映画化され（邦題『オデッセイ』）大ヒットしたので、御記憶の方も多だろう。

そのウィアの第3長編が本書で、今度は太陽に途轍もない異変が生じ、人類滅亡の危機を回避すべく世界規模のプロジェクトが進められると云う物語である。冒頭主人公が目覚めると、自分が誰なのか、

何処に居るのか、何故居るのか全く分からないという状況で始まり、危機また危機の連続を、持てる科学知識と利用可能な技術を駆使して一つ一つ解決していくプロセスは文字通り巻を措く能わずで、大部な本を一気呵成に読ませてしまう。筆者は特段のSFファンではないし、科学的知識も平均を遥かに下回るのが、にも関わらず（科学オンチの筆者でも）一気に読み通したのだから、面白さの点は充分保証する。

しかし、何故『会報』Bookshelf欄でわざわざ冒険SF小説を「推す」のだと、疑問に思う方も多数おられると思う。その理由はと言うと——ネタバレらしになるので詳細は述べられないが——本書はSFサヴァイヴァル小説であると同時に、“コミュニケーション”が重要なモチーフとして描かれているからである。Chapter 6の最後で主人公は“Holy fucking shit!”と叫ぶのだが、筆者も主人公同様驚天動地というかこの場面で吃驚仰天した。ここからの展開は全く先を読ませず、その意外性と驚きを味わう為にも、予備知識なしで読むことをこうしてしつこく力説する次第である。

斯くの如くプロットには殆ど触れられないので、代わりと言ってはなんだがトリビアを幾つか御披露する。本書劈頭、‘FOR JOHN, PAUL, GEORGE, AND RINGO’ という献辞が載っている。一体ビートルズとどう関係するのだと狐につままれるが、Chapter 4の終りでその理由が明らかになり、Chapter 18ではPeteが登場し、Chapter 22では *A Hard Day's Night* が出てくるのだから、The Fab Four マニアの方々は狂喜乱舞して随喜之涙を流すこと疑いなし。また、本書には或る有名な映画がネタとして用いられており、Chapter 16のワンシーンでは爆笑必至である。

もう一つ重要な——でも一見さりげない——設定があって、実は主人公は中学校の理科の先生である。マッチョとは真逆で涙もろくて子供好き、何より生徒たちに理屈をゼロから教えるのが大好きという主人公のキャラが、先ほど触れた“コミュニケーション”と大いに関連してくる。なので、ラスト2行で筆者は思わず涙ぐんでしまったことを付記しておく。